

平成29年度 第3回 小平市男女共同参画推進審議会 会議要録

日時：平成30年3月19日（月）午後1時30分～3時50分

場所：市役所本庁舎5階 502会議室

1 出席者

小平市男女共同参画推進審議会委員：9人（欠席者1人）

2 傍聴者

1人

3 会議資料

資料1 平成29年度 重点項目の取組み

資料2 会長作成・「小平アクティブプラン21（第三次小平市男女共同参画推進計画）の実施の充実を図るための留意事項についての意見書（案）」

参考資料1 配偶者暴力に関するリーフレット「ひとりで悩んでいませんか？」

参考資料2 子育て・女性相談室リーフレット

参考資料3 「東京くらし防災」

4 議題

(1) 小平アクティブプラン21【第三次】重点項目の取組み（報告）

(2) 意見書（案）について

5 会議記録（要約）

議題（1）小平アクティブプラン21【第三次】重点項目の取組み（報告）

⇒資料1：平成29年度 重点項目の取組み

会 長：議題（1）小平アクティブプラン21【第三次】重点項目の取組みについて事務局より説明を。

事務局：資料1 平成29年度 重点項目の取組み

要点の説明 小平アクティブプラン21（第三次小平市男女共同参画推進計画）の重点項目3点を中心に市民協働・男女参画推進課男女共同参画担当が進めたもの、新しく取組んだ事業のみをまとめたもの。全庁の分は新年度に調査を行

いまとめる。

会 長 : 何かご質問があればどうぞ。

委 員 : 男女共同参画推進実行委員などから講演会等について、フェイスブックでシェアしてほしいとの要望があった。シェアしたいが市の主催であるという情報元がはっきりしないので個人ではシェアしづらい。SNSで1年だけでもページを持ったらどうか。

会 長 : 事務局に対する提案である。

委 員 : 男女共同参画センター利用登録団体は全部で何団体あるのか。

事務局 : 全部で16団体。その内、1団体は活動休止中。

委 員 : 講演会などで保育を利用する時、保育が満員で講演会に参加できないということもあるのか。

事務局 : 保育が満員で断ったということはない。保育従事者は登録臨時職員の中から予算の中で雇用している。男女共同参画担当や公民館には予算がついているが、他の課はないところも多い。保育できる子どもの人数は年齢、兄弟、保育経験の有無等で決めている。雇える人数も予算の中でしか、対応できない。

委 員 : 保育については有料でもいいから、預かってほしいというニーズはある。保育室さえあれば、有料で保育というのはあり得るかもしれない。今後検討してみてもどうか。

委 員 : 子どもを持つ方が子育て中ということが理由で、活動が制約されるのは、社会が本気で取組んでいるとは言えない。保育所問題だけでなく、女性が政治参画をすればと言ったら子どもをどうするのか、授乳している人はどうするのか、そういう方への手当が必要という問題がある。女性が働くこと以外にも子育てをサポートするということは社会が負うべきこと。保育士の予算の問題というのは、まだ男女共同参画の位置づけが低い、ジェンダーが主流化していない。まだまだ私たちの取組みも不十分だと思う。

事務局 : おっしゃる通りの部分もある。保育士はこれまでの保育の実績を見ながら予算を

組んでいる。募集をかけてみたら予想以上に人数が多かったということはある。今のご意見を参考に今後も予算を組んでいきたい。2月25日の女と男のフォーラムの際は多くの方が保育を希望され、前日の24日の地域防災フォーラム・男女共同参画講演会では保育の希望者が少なかったもので、25日に保育士を急ぎょ変更して、25日は希望された方全員が保育を利用できるようにした。今後も、保育を理由に参加できないという方が出ないように予算の中でできる限り対応していきたい。

会 長 : 市が予算を組むというのは大事だが違う形で、つまり市民同士の保育の仕組みもいくつか組み合わせられると、子育て中でも地域活動できる社会になるのではないか。

議題(2) 意見書(案)について

⇒資料2: 会長作成・「小平アクティブプラン21(第三次小平市男女共同参画推進計画)の実施の充実を図るための留意事項についての意見書(案)」

会 長 : 小平アクティブプラン21(第三次小平市男女共同参画推進計画)が策定され、今後4年間、計画に沿って推進していくにあたり、事業の充実を図るために、市長に意見書を提出したいと思うがいかがか。
資料2の意見書の中で、留意点という形で4点挙げている。さらに具体的な連携事業者や具体例も加筆したいと思う。皆さんの意見をいただきたい。

委 員 : 今年度の実績で市民協働・男女参画推進課と個別事業の担当課の連携についてうまくいったとのことだったが、事務局として一緒に事業を行う担当課の反応というのはどのようなものだったのか。

事務局 : 今回大きかったのは防災危機管理課と共催で行った地域防災フォーラムである。お互いに女性の視点が必要だという共通の意見だったので、開催に当たっては連携がうまくできた。男女共同参画を取り入れて大々的にできるようになった。

委 員 : 意見書には市民協働・男女参画推進課と他課が共催した、連携の効果を明記することだったが、今のところ何を挙げるのか。

会 長 : 防災危機管理課との地域防災フォーラム、子育て支援課との女性に対する暴力をなくす運動の展示・啓発、保育課との就労支援講座、産業振興課との事業者懇談会等を考えている。

資料1の事業No. 17だが、これは内閣府調査「地域における男性の家事・育児等の参加促進に係る取組事例調査」について取りまとめを行ったところ、この5つのイベントが実施されていたことがわかったということか。

事務局 : 今までも実施している事業であり、推進状況調査報告書に掲載していたものもあるが、今回わかったという事例もある。

委員 : 市民協働・男女参画推進課と共催で実施したものではないのか。

事務局 : この中にはない。

会長 : 調査だけでは、各課の取組がどのようになっているのかわからない部分があるものだ。実際に連携して取組むと効果的だ。男女共同参画担当と一緒に機運作りもできるのが理想的。

委員 : 意見書には意外な課との連携のほうが目をひくのではないか。保育課や子育て支援課との連携は当然。防災危機管理課との連携はとてもいいと思う。チラシを置いたりするのは連携なのか、事業として取組み内容でチラシ配架を上げるのはどうかと思う。

委員 : 市役所職員の内示が出たようだが、女性の管理職登用の割合は怎么样了か。

事務局 : 内示の段階だが女性管理職の割合は上がっていない。

委員 : デートDV防止講座は、市民向けには行われぬのか。

事務局 : 中学校は授業の一環であり、学校公開日ではないので難しい。来年度は大学で実施予定のデートDV防止講座で、市民も参加できる公開講座にしてもらえぬいか交渉中である。

会長 : 今までのやりとりを踏まえて、意見書の中には連携の具体例として、中学生向けデートDV防止講座、地域防災フォーラムを取り上げていきたい。

委員 : 事業者の懇談会は興味がある。えるぼし認定を受けた会社は何社あるのか。

事務局 : 現在、えるぼし認定を受けている会社は市内で1社だけである。

委員 : えるぼし認定を受けた会社の場所はわかるが、あまり社内に入出入りする人がいるイメージがない。社長は女性なのか。

事務局 : 全国展開している会社で、本社にいるのは一部の社員。式場に派遣されるか、営業の方は外出している。社長は男性で、社員はほとんどが女性。

委員 : 是非、えるぼし認定企業の方を次の審議会メンバーにしてほしい。

委員 : 市内事業者懇談会に9社参加したとのことだが、今後えるぼしを取りたいという会社はあったのか。

事務局 : アンケートを取った中には、今後女性活躍を進めたいという会社はあった。

委員 : 女性活躍を進めている会社が小平市にはあるということ、是非アピールしてほしい。

委員 : 意見書の「はじめに」中で使われている「管見する」という言葉は難しい言葉なので、もう少しわかりやすい言葉にしてはどうか。

会長 : ちょっと見てみたところ、と謙遜を込めた表現にしたつもりだが、工夫する。

委員 : 意見書の中で4点を順位付けするとしたらどうなるか。

会長 : 男女共同参画担当課は、市役所組織における政策全体の統括の中核の課ではなく他の課と横並びなので、男女共同参画政策の推進について、全市的な浸透を図るのは大変な面がある。その点からすると、意見書の「市民協働・男女参画推進課と個別事業の担当課の連携の効果に着目すること」が第1だといえる。地道な作業で苦勞すると思うが、他課との連携は信頼関係を築く上でも大切なこと。良い事業を1つでも多く動かすことにつながる。残りの3点の優劣はつけられない。

それでは、この案に若干修正を加えて、副会長とともに市長に意見書を提出することとしたい。

今日で男女共同参画推進審議会が最後なので、2年間の感想を短くお話いただきたい。次期、審議会委員のために、委員になるにあたってのアドバイスがあればお話しいただきたい。

- 委員：初めはジェンダーという言葉を使うことも聞くこともなかったが、審議会委員になって、ジェンダーについて考える機会が持てて良かった。小平アクティブプラン21(第三次小平市男女共同参画推進計画)の策定に関わられて、貴重な機会だった。
- 委員：感想が2つある。1つ目は、第三次小平市男女共同参画推進計画に携わって、様々なバックグラウンドの方と活発な意見交換ができ、貴重な経験、財産になった。今後は一市民として男女共同参画に関わっていきたい。2つ目は、平成27年から他の審議会等を約80回傍聴したが、当審議会の事務局は変更・改善提案に対する壁が低く、アクションが速いと感じた。事務局には御苦労が多かったと思う。
- 委員：審議会委員になり、とても勉強になった。こういう機会はより多くの市民に経験してほしい。小さい頃から男女共同参画に関する教育をしてほしいと要望したが、各年齢層、適当と思われる教育の時期、場所を考えながら推進されていくということがわかった。子どもが中学に上がるので、デートDVの授業を受けられるといい。今後もジェンダーのいろはからの充実した勉強会を開催いただき、率直な意見が出ることを願っている。
- 委員：自分だけでは得ることができなかった知識を得ることができた。組織改正など事務局も大変だったと思うが、男女共同参画が推進しているところを生で見られたのは良かった。市民協働の立場でも関わらせていただいて市の活動が見えるようになった。今後も小平市に関わっていきたい。次期審議会委員になる方へ、市報でどんな課が何のためにやっているのか、目的を意識して見ていくと今後の審議をする際にも役に立つと思う。
- 委員：男女共同参画という視点は市民として持っていなかったが、持てるようになった。また、市報の見方や学校の取組みがどういう目的で行われているのかが分かるようになった。現在、個人的に障がい子どもたちに関わっているが、男女共同参画という視点で見ると母親だけが子どもの世話を担い、男性が知識を持って育児することは少ないと感じた。今後そういう視点でも男女共同参画を進めてもらえると、誰もが生活しやすい社会になると思った。次期審議会委員になる方へ、なぜ審議会委員になったのか、目的意識をはっきり持って参加できると良いと思う。
- 委員：男女共同参画とは、自分たちが自分らしく生きていくためのことであるととて

も身近に感じる事ができたのは大きな変化だった。仕事で他市に行った時にも男女共同参画に関するパンフレットなどを手に取り、他市はどのような取り組みをしているのか見るようになった。本来の自分の業務からは離れた内容だったが、学ぶことが多い2年間だった。働き方改革が言われる中で、時間の使い方が大切だと考えている。若い方が多くのイベントや講演会に参加していることを、2年間の総まとめとして、自分の中で感じられたのは大きな収穫だった。興味を持ってもらうことが、その方達が動くマンパワーになり、社会に良い流れができて、市民活動が盛んになれば小平市がいい方向に進むと思う。次期審議会委員になる方へ、審議会の中で表現の仕方など難しいものもあるが、自分や自分の周りの人に置き換えてみるとより取り組みやすいと思う。

委員：初めは何もわからず皆さんの話についていくのが精一杯だった。ここまで深く男女共同参画について考えたことがなく、毎回この場で色んな事を学んで、とても良い経験になった。これからの時代を生きていく自分の子どもだけでなく、友だちの子どもなどにも、男の子でも、女の子でも、何でもできるということを伝えていきたい。そういう社会になるように、自分自身も努力していきたい。

委員：妊娠・出産・授乳など、子育てが社会にとって重要だということがまだ浸透していない。社会の価値観を変えていかなければならない。小平アクティブプラン21(第三次小平市男女共同参画推進計画)にセクシュアル・オリエンテーション(性的指向)などの多様性の視点が入ったのは大きかった。多様性が自由に表現できるようになり、民族的な多様性、障がいも含め、あらゆる多様性が進んでいる。今後も市民向け、職員向けの研修を充実させてほしい。最近、あまりに少子化が進み、子育てのために社会の資源を割かなければならないということが言われ、保育所は増えてきたが、まだ足りない。短時間勤務、女性・男性の子育てとの両立が進むと、子どものいない同僚に負担がかかるのはおかしいと思っていたが、新聞の記事に育児・介護等を抱える方を支える側の社員がプラスに評価されるという記事があった。働く場をどう変えていくか、育児と仕事を両立させる社員と、一緒に働いている、支える社員が評価されることで、充実して働ける職場に変わるように、市の啓発活動、取り組みが進めばいい。

会長：新しい計画を作るにあたり、審議会委員が男女共同参画の考え方や取組んでいることを勉強し、視野を広げることができればと思い、勉強会の開催など意図的に工夫した。審議会には自由にものが言え、かつ、委員の提案が現実にいける形になるようにした。本業が地方自治論なので、現場に関わったときは本業の

使命が出て言い過ぎたことがあったかもしれないが、的外れの指摘はしなかったので理解いただきたい。市民も、審議会委員も行政スタッフも、小平市に必要な政策が取り上げられてうまく実現するような仕組みを工夫する余地はたくさんあると思う。改めて感じているのは、計画がどれだけ進むかは職員の頑張り次第だということだ。事務局には頑張ってもらいたい。協力的に進めてくださった委員、事務局に感謝したい。
それでは、事務局を代表してあいさつを。

事務局 : 2年間の最後の男女共同参画推進審議会に際し、御礼を申し上げる。

(部長あいさつ代読)

会 長 : 以上で平成29年第3回小平市男女共同参画推進審議会を終了する。